

愛知・下津城跡



(名古屋北部)

1 所在地 愛知県稲沢市下津町高戸

2 調査期間 一九八一年(昭56)七月～一九八二年(昭57)三月

3 発掘機関 稲沢市教育委員会

4 調査担当者 岩野見司

5 遺跡の種類 城跡

6 遺跡の年代 鎌倉～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

下津城跡は、尾張国府跡の東二・五kmに位置し、木曾川の支流青木川右岸の自然堤防上に立地する。城の起源は詳らかでないが、鎌

倉時代から守護所があった可能性がある。確実なのは、斯波氏が守護に着任した応永七年(二四〇〇)頃以降で、守護代の織田氏が居城していた。文明八年(一四七六)織田敏定によって城が焼かれ、城主織田敏広は国府宮へ

退いた。

一九七九年(昭54)度から三か年にわたって県道拡幅部分で発掘調査が実施され、城の南北方向での範囲が確認された。一九八一年度の調査は、六か所の発掘区を設け、推定本丸・二の丸境の堀、二の丸・三の丸境の堀、三の丸西端の堀、土器溜り、土壇群等が検出された。堀の肩には護岸用と考えられる杭列が残存していた。出土遺物は、木製品(木簡、漆器、曲物、櫛、籠)、瓦(軒平瓦)、土師器、中国陶磁、中世陶器、土製品、石製品、銅製品等である。

木簡は、二の丸・三の丸境の堀、三の丸西端の堀の二か所で出土した。

8 木簡の积文・内容

出土した木簡は一四点で、うち四点(1)～(4)は笹塔婆、七点(8)～(14)は箸状の材に墨書したものである。

(1) 「南無阿弥陀仏 為 妙珍」 362×25×2 061

頭部は圭頭状で左右に二本の切込がある。

(2) 「 速得往生為常久

(3) 「 頭部は五輪塔状。」 (484)×21×2 061

頭部は五輪塔状。

(3) 「 為」

「 488×33×5 061

頭部は五輪塔状。

(4)	×道□×	(61) × 20 × 2	081
(5)	▽□	90 × 21 × 4	032
(6)	▽□	(75) × (7) × 2	039
(7)	■	(71) × 22 × 2	019
(8)	「」	(249) × 11 × (3)	065
(9)	×□	(284) × 11 × (5)	065
(10)	□	(235) × 10 × (5)	065

(11)	□	(282) × 11 × (3)	065
(12)	「」	297 × 11 × (3)	065
(13)	「」	(276) × 12 × (4)	065
(14)	□	(249) × 9 × 6	065

9 関係文献

稲沢市教育委員会

『稲沢市の木製品』

(稲沢市文化財調査報告 XIV)

一九八二年

稲沢市教育委員会

『下津城跡発掘調査概要報告書Ⅲ』

(稲沢市文化財調査報告 XVI)

一九八二年

(北條献示)



木簡(1)



木簡(2)